

## 第2550地区 新入会員紹介



みうら やすお  
**三浦康雄**  
(佐野東RC)

(株)ホクサン 常務取締役  
平成23年1月2日入会  
・佐野RCに入会できて光栄に思います。よろしくお祈りします。



おばた ひでき  
**小幡英樹**  
(足利東RC)

(株)ニューミヤコホテル  
平成23年1月11日入会  
・よろしくお祈り致します。



たかい たかし  
**高井 孝**  
(栃木RC)

(株)日本旅行栃木支店 支店長  
平成23年4月1日入会  
・単身赴任で参りました。皆様の御指導・御鞭撻の程宜しくお祈り申し上げます。



たかぎ ゆうだい  
**高木雄大**  
(大田原中央RC)

NPO法人 キャリアコーチ  
平成23年4月1日入会  
・社会福祉の為、少しでも力になればと思っております。



おおつか やすひろ  
**大塚康宏**  
(大田原RC)

NTT東日本栃木ビジネス営業部  
大田原営業所 所長  
平成23年4月7日入会  
・職業奉仕、自然との共生に向けて皆様と共に頑張ります。

それこそロータリー

一、どこで会っても やあと言おう  
見つけたときにや おいと呼ぼうよ  
遠い時には 手を振り合おうよ  
それこそ ロータリー ロータリー

二、笑顔笑顔で 語り合おうよ  
心、心で 結び合おうよ  
みんな世の為 働き合おうよ  
それこそ ロータリー ロータリー

三、どここの国でも 友が居るよ  
みんな一つの 輪になろうよ  
同じ心で 親しみ合おうよ  
それこそ ロータリー ロータリー

### ■物故会員■ 謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り申し上げます。



物故  
平成23年 3月2日  
享年75歳

ますやま みずひこ

**増山 瑞比古様**  
(宇都宮西RC)

■ロータリー歴 昭和50年1月入会

1980~81年 社会奉仕委員長  
1988~89年 幹事  
2002~03年 会長

■財団・米山記念奨学金などの寄付歴

ベネファクター  
マルチプル・ポールハリス・フェロー  
第10回米山功労者 メジャードナー  
米山功労法人

### 大田原 RC より事務所および例会場の変更です。

新事務所 〒324-0062 栃木県大田原市中田原 593-3

例会場 大田原温泉・ホテル龍城苑

TEL 0287-24-2525 FAX 0287-24-3737

なお、毎週木曜日午後12時30分からの例会は変更ありません。

事務所・例会場  
変更のお知らせ

第2550地区ガバナー事務所

5月のロータリーレート1ドル=82円

〒320-0826 宇都宮市西原町142 宇都宮グランドホテル内 TEL:028-651-2550 FAX:028-651-2551  
メールアドレス/m2550@agate.plala.or.jp



国際ロータリー第2550地区

R. I DISTRICT 2550

http://www.rid2550.com/

# ガバナー月信

2010-2011

VOL.11

## 今何をすべきか

### 被災地へ支援物資を搬送しながら考える



ガバナー 瀬下 龍夫

#### 地区のメンバーに感謝

被災された方もおられるのに、多くのクラブが自主的に、より災害の大きかった地域のために支援活動をしてくださり、第2550地区は素晴らしいと感じました。まさに、奉仕の理想を実践されているのです。今後も継続して、被災地への支援をお願いいたします。

#### 支援物資を何処に届けるか

3,000食分に相当する缶詰の味付け食パンが、壬生クラブに、3月末にやっと納入される。震災前からクラブで備蓄をしようかと考えていたメンバーがいたので、即発注したが、2週間近くかかった。



何処に届けるか。被災地区ガバナーに相談するも、最終的にはわれわれで判断した。

かつて、阪神大震災のボランティアから聞いた話を思い出したからだ。

当時、神戸の避難所にバナナが届けられる。バナナなら、ナイフや皿がなくてもよい。幼児でも年寄りでもいただける。みなそう考えたのだろう、全国から連日届く。でも、避難所には保管場所がない。食べきれず腐ったバナナに困る。処理する車はおろか焼却場も瓦礫の山で、捨てる場所もない。このような判断ミスは、われわれも犯しがちである。

支援物資を送るときは、何時、何を、何処へ、どのくらい送るのか、実際に受け取る側とよく相談して決めるべきだ、ということを上記の話で学んだからである。

被災地で必要とする物資も、時々刻々と変化する。行政でも適切にできていない。ただ避難場所に一律に支援物資を配布しているようにすら見える。現実には使用されない物資が、いつまでも避難場所に置かれてあるのをみればわかるであろう。行政は公平にと考えたのだろうが、これは場所や、時には、必要でないものまで送られてくるからである。

必要なものを、必要な量、必要なときに配送するのは考えるほど簡単ではない。

ところが、現場に立っているはずのロータリアンですら、何をすべきかなどと質問する。残念だ。親戚、友人、被雇用者、得意先が被害者になったらどうするのか考えて実践して欲しい。さもないければ、心のこもった支援など覚束ない。上意下達ではなく、それぞれのクラブが、独自の支援をする。災害時の支援活動は、クラブの自主性を確立する大きな礎となろう。クラブの活性化にも繋がる。

注意すべきは、被災者の中でも、声の大きい人、マスコミが勝手に飛びついた情報がすべてだと、われわれが勘違いしやすいことだ。たとえば、仮設住宅が必要なのは当然だが、今、足りないのは、建材よりも用地のほうではないかと、一歩下がって考えることです。誰かが毛布を送ると、まねをする。ところが、枕を送る人は少ない。このように、何が不足しているのか、とことん突っ込んで、自ら調べなければいけない。

行動が遅いのもまずい。遅れて行動するから、災害対策本部には、すでに必要でなくなったところ支援物資が届く。外国から Too little, too late と非難されたことを思い出して欲しい。

ちなみに、第2550地区では、久慈市にいち早く布団100組を寄贈した。他地区でも用意したそうだが、一番先に手を上げたのは、当地区です。

一方、2週間たっても、支援物資が届かないところもまだある。そういう場所は、支援物資を必要としているが、情報を発信すらできない悲惨な状態が多い。

VOL.11  
CONTENTS

1P~3P ガバナーメッセージ 4P 復興へ歩みだした益子 5P 第2グループIM報告・地区チーム研修セミナー報告 6P 世界から激励メール続々 8P~9P インターネット海外研修報告 10P ローターアクトクラブの現状を語る 11P ローター友誼交換 12P 故郷津波バスガバナーを偲んで 13P~14P 米山奨学金寄付者名簿・文庫通信 15P 3月会員増強・出席報告 16P 新入会員・物故者・お知らせ

## 被災地のニーズは何か

今後、求められるのは時間の提供ではないでしょうか。義捐金は額を問わなければ誰でもだします。でも、支援のための時間を出してくださる方は限られています。それも継続して提供して下さる方が必要なのです。

ロータリーでは、ニーズを満たす行為を“Service”すなわち、「奉仕」と定義したのです。したがって、被災地のニーズを正しく汲み取って、理想的なかたちで満たすことが、「奉仕の理想」なのではないでしょうか。しかし、ニーズと欲求とは必ずしも一致しないことがあるので難しくなるのです。ポリオ・ワクチンを幼児に飲ませなければならぬのに、拒絶する親がいるのと同じです。

クラブで、このようなことを熟慮し、災害支援を実施すれば、新会員に真の奉仕活動とはどのようなものであるか、具体的に教示できるのです。

支援物資は遠いところ、道幅が狭く自衛隊の車幅が広い車では行きにくい奥地や、人数の少ない場所ほど不足しています。

したがって、支援の前に電話し、状況をその都度、確認する必要があります。実際、もらった支援物資を忙しい中、被災者自身が、費用と手間隙かけて他の地区に転送しているところもある。ただ送ればよいのではない。

支援物資が欲しいという被災地でも、訪れてみると、食糧のみお受けいたしますと避難所の入り口に張り紙がしてあったりする。さらに聞くと、お米は余っています。リンゴもありますという。もちろん、当初は1日におにぎりやパン各1ケの時もあったが、今ではおにぎりは食べたい放題というところもある。炊き出しに行きたいと申し出たクラブに、暖かいご飯は自衛隊が出してくれるので辞退したという話もあった。冷蔵庫がない。電気がない。そこで、腐りやすいものはなかなか口に入らない。すしのようなものが食べたいという子供もいるが、安全性の観点からか、実践される方は少ない。

## 現場を自分の目で見る

出発前に、ガソリンが不足している被災地で、給油するのは筋が通らぬと、軽油で、かつ、往復できるようなタンクの大きな車で出かける。実際、途中、高速道路のガソリンスタンドも車の行列ができていた。ところが自動車道を降りると、津波の来なかった岩手県内の町でもすでに多くのスタンドが開いて客待ち状態だ。もちろん、津波が押し寄せた地域ではスタンドもやられているのでガソリンはない。ところが、その隣の町ではかなり状況が違う。栃木県のほうがまだ行列があったが、現地は違う。テレビなどの情報のみで一方

的に自己判断すると間違える。現場を自分の目で見、確認することが大切なのだ。

朝3時半に起き、朝食をとる。食料の足りない現地で食べるのは申し訳ないと考えたからだ。会員の家を回り、会長宅に着き、追加の荷物を積み込む。4人で出発。座席は荷物で溢れ、身動きできない。エコノミー症候群を気にしながらの長旅だ。釜石の近くまで約8時間かかるが、市内に入ってから大渋滞だ。東北自動車道が再開したので、親戚や支援者がふえたのと、釜石は一部がまだ停電で、交通信号が消えていたことや、瓦礫の山で車が簡単にすれちがえないからだろう。兵庫県警が誘導しているところはよいが、警察官が立っていないところは、車はお互いに譲り合ってなかなか進まず、目の前に着てから1時間以上かかる。

釜石の防波堤は、港の入り口、水深63メートルのところにハの字形に築かれ、ギネスブックにも載っているように、世界一だ。新聞では1270億円、地元では2000億円かけたといわれる防潮堤、どんな津波で大丈夫だといわれていたが第2波であえなく、破壊された。でも、RC会長宅は、その防潮堤がなければ流されていただろうという。

まず、災害対策本部を訪問、副市長に缶詰食パンの見本を手渡す。初めてなのか大変喜んでくれる。丁度、NHKとインタビュー中で、記者はどうぞというが、役所の課長はダメだと阻止。なぜなのか。我々の姿がテレビに映れば、さらに、多くのロータリアンが応援してくれるだろうに。

災害対策本部の傍に大きなテントが張っており、支援物資が保管されている。要求に応じて、そこから自衛隊が被災所に運ぶ。個人で来られる方もいる。でも、車も流され、歩いて来られない人も多くいるのだろう。インフラの復旧はまだ一部のみだ。携帯電話すら通じていない場所も多い。

支援物資を配達する途中、教会に立ち寄り、牧師さんから話を聞く。傍の瓦礫に破れたベニヤ板が立てかけてあり、その上に曲がったナンバープレートが7～8枚貼り付けてある。教会の前に流れ着いた自動車の所有者が現れない。道を塞いでいるので自衛隊に撤去してもらったが、“あなたの車はここまで流れてきましたよ、現在は新日鉄の運動場に運びました”と、知らせるようにしているのだ。

釜石に限らず太平洋沿岸のロータリークラブは壊滅状態だ。例会場も使えない。被災者が多い。亡くなられた方もいる。連絡がなかなか取れない。メンバーの気持ちを多少でも和らげることができればと、被災会員のお宅にも訪問。かける言葉もない。年寄りが、けなげにも後片付けしている姿を見ると、胸がいつそう痛む。瓦礫が道路にはみ出し、いたるところで、交互通行で、時間を

とられるが、訪問した甲斐はある。

昭和23年のキティ台風で、小職の東京は下町の実家は屋根まで水浸しになり、隣近所から多くの溺死者が出たのを昨日のように思い出す。当時は家の間仕切りは土壁が多かった。濁流が家の中まで浸入するとその壁が崩れ落ち、いたところがドロコだ。水が不足しているので、簡単には綺麗にならない。悪臭が消えない。子供心にも、瓦礫が多すぎ、終わりも見えず、片付ける意欲がくじけそうになった。これは同じような被害を被った人しか理解できないだろう。津波の被害はこれより大きし、広域だ。苦しみはなおさらだろう。

## 大槌町の植田医師

釜石市から大槌町に向かう。新しいトンネルが開通したばかりであったが、そこを通過して避難した人は、命を失わなかったよし。運命を感じる。避難所にロータリーの幹事を何度も務められた植田医師がかいがいしく働いている。ご自宅の医院は4階建てにしたので、3階まで津波がきたが、最上階に避難して助かったそうだ。

避難されている方は年寄りが多く、みな首をうなだれ、疲れきっていた。じっと耐え忍んでいるが、その目には涙が潤み、そろそろ限界のように見える。彼らをこれ以上悲しませないように、なにかできないか、お互いに考えようではないか。植田先生のように避難者に笑顔があげられないか。持参した日持ちする食パンを渡すと笑顔が浮かぶ。あとでもっと送ってあげたい。実際、そのパン屋のホームページに、配った大槌町の避難民の方から感謝のコメントが載っていた。我々の目的はいくらか達成できたと安堵する。

社会福祉協議会の会長さんも自宅をやられ、別のところに避難しておられた。ゆっくりお話を聞き、本当に困っている人々のところまで、支援物資を配れず、誠に残念。

災害対策本部、支援物資保管所、教会、避難所、被災された個人宅3軒、会長宅などわずか10ヶ所足らずを回るのに5時間以上かかる。瓦礫で道路が狭まっている。対向車が来れば進めないからだ。ご想像いただけるだろうか。もう少し時間が欲しかった。被災者一人でも多く慰めたかったからである。日が落ちてから、釜石を離れ帰宅するも、床に就いたときは、午前2時に近かった。

1日22時間以上眠らず働いたのは何年ぶりか。

でも、被災者はそれ以上の苦難を背負って、これから生きてゆかねばならぬ。1日だけの問題ではない。できるだけ手を差し伸べようではないか。

## みんなで知恵をだそう

瓦礫は、時が経てば少なくなるが、支援は3ヶ月後、半年後にもっと必要になってこよう。義捐金はかなり集まったが、復興に必要な資金としては、涙の一滴にすぎない。効果的な支援が求められるゆえんである。でも、義捐金を出して下さった気持ちは、それ以上に役立つ。いかにしたら、その気持ちを活用できるか。被災地のロータリアンと連絡をとりながら、英知を出し合い、ロータリーならではの支援をしようではありませんか。すでに多くのクラブがしてくださっています。何回も支援下さっているクラブもあります。個人でなさっている方もいます。真の奉仕の心をお持ちだからでしょう。敬服すると同時に私もそのような人達と一緒にロータリーにいたのだと感動を覚えました。

帰りの車の中で、その支援策を考えつづける。県内には医科大学がある。看護学部もある。彼らに、被災地でボランティア活動をしてもらえば、最高の教育実践現場になるだろう。夏休みなら高校生や大学生にもお願いできる。若い世代とのコミュニケーションの場もできよう。彼らに奉仕の心の種を蒔く絶好の機会ではないか。新世代育成に大きく貢献できると同時にわれわれも成長できよう。これを何とか実現する方法はないか。

親を失った子供はだれが育てるのか。彼らを義務教育、いや、高校卒業まで面倒みれないか。長期の支援が必要だろう。忘れないで欲しい。未来をになうのは彼らなのだ。孤児の年齢に近いライリアンの意見も聞いてみたい。

県内にも被災された方は大勢います。彼らも助けたい。

みんなで知恵を出し合い、持てる力を結集して、復興を手助けしようではありませんか。





## 復興へ歩みだした益子

益子ロータリークラブ会長 藤原 郁 三



この度の東日本大震災では、陶芸の里益子も甚大な被害を受けました。特に登窯、穴窯等のマキ窯は90%以上が損壊し、又、作品も相当数が壊れ、数十トンにのぼるガレキの山と化してしまいました。

私の工房でも、穴窯が全壊、ガス窯・電気窯も焼成中だった作品ごと崩れてしまい、最初は何から手をつけて良いか解らない程で、それこそ茫然自失の状態でした。

でもありがたい事に益子の被災状況が、ニュースやネット上で海外でも知れ渡ることとなり、外国から多くの義援金が益子に寄せられて来ました。現在も続いています。それだけ、益子が世界的に知られているということの証ではないでしょうか。これは濱田庄司や島岡達三始め、多くの陶芸家が外国で活躍し、影響を与えて来たおかげだと思います。

こうした海外からのあたたかな支援もあって、益子の復興は着実に進みつつあります。

春の陶器市も、最初は自粛せざるを得ないという事でしたが、益子が元気になる為にはかせないとして、「がんばろう益子」「がんばろう栃木」「がんばろう東北」を合言葉に開催することとなりました。



益子町観光協会が制作したステッカー

ロータリークラブとしては、当然色々な分野の人達が会員ですから、出来るだけ幅広く支援していこうという姿勢ですので、最初は、益子焼だけを特別視して支援するのは控えようというふうに考えていました。しかしながら、益子ロータリークラブの会員である陶芸家の佐久間藤也君が、益子焼復興支援センターの代表としてがんばっておられていますので、それならば益子RCとしても支援していこうということになって、支援金として早速に30万円をお渡ししました。

それから、義援金としては、益子町に30万円、茂木町に20万円、そして2550地区の方へ20万円を送らせて頂きました。

また、第4グループのIMが3月12日に予定されていましたが、震災の直後であり、開催出来なくなってしまった為、その残金を義援金として第4グループから、それぞれ関係自治体に送られることになり、すでに実行されました。

ということで、一応義援金については、益子RCとしてそれなりに役割を果たしたのですが、本格的な復興はまだまだこれからです。息の長い支援活動が必要です。

益子RCとしても、さらにもっと具体的に目に見える形で労力を使って、汗を流して、しかも益子ロータリーにしか出来ないことは何か、これからはそれを考えていこうということになりました。ホームミーティングのテーマに、そのことを提案し、会員全員に話し合ってもらいました。そうしましたところ、大変有意義なアイデアがたくさん出て来ました。



地震で散らばった陶器の数々

今まではHMは言い放しが多く、そこで話されたことはなかなか具体化しませんが、今回は事が事だけに、その中の例え1つでも実行したいという思いから一番実行可能で、しかも益子RCならではの、益子RCにしか出来ない支援活動を取り上げることになりました。それが、岩手県の大船渡ロータリークラブへの支援です。

益子RCはかつて、ロータリーの野球大会で大船渡RCと試合をしたことがあり、それが縁で交流がありました。大船渡は今回34メートルもの津波に襲われ、町そのものが壊滅してしまいました。大船渡RCも活動不能の状態ではなかなか連絡が取れずにいました。ようやく連絡が取れて、これからの支援の要望をお聞きしましたところ、これから少しずつ仮説住宅の建設が進んで、被災者達が家族ごとに移り住んでいくことになり、その段階になった時、各家庭用の食器が必要になってくるので、益子RCから、益子焼の食器を送ってもらえ

るのがとてもありがたいというお話でした。勿論、相変わらず食料も足りないということでした。

そこで、益子の食器を出来るだけたくさん仕入れて、食料と一緒に私達自身がトラックで運ぶプロジェクトを立ち上げることにしました。

益子焼の食器を大量に購入することで、益子の復興の手助けになると同時に、東北への直接的支援にもつながります。一石二鳥というわけです。なにより私達ロータリアン自身が汗を流して、ボランティア活動を実践することに意義があります。

それに益子の食器を届けるという活動は、益子RCならではの、地域性を生かした活動といえますので、是非実現させたいと思っています。

又、この度は氏家ロータリークラブさんから益子へ見舞金が送られました。氏家RCもかつて大船渡RCと野球をしたことがあるとのこと。第4グループの他のロータリークラブや、外国からも、益子RCへ見舞金が送られる等、支援の輪が広がって来ています。この心あたたまる皆さんの善意に最大限答えていく為にも、この益子焼の食器を被災地に届けるプロジェクトの資金に、すべて加えさせていたきたいと思います。

益子への支援に心より感謝申し上げますと共に、一日も早い復興を、心から願ってやみません。



## IM 報告

### 第2グループ

2011年2月15日(火)開催

ガバナー補佐 菅野 進 一 (矢板RC)

第2グループは県北部地域の5クラブにて第2グループが構成されており第2グループは前ガバナー補佐によって実施されたIMと同じようなグループによる懇親会を行って参りました。各地のクラブ担当によって実施をしてきました。5クラブは氏家RC・矢板RC・高根沢RC・烏山RC・馬頭小川RCで構成されており、今年度は矢板RCによるホストにて開催致しました。来賓として 矢板市長・塩谷 町長をお迎えして午後2時に開催致しました。

午後2時30分より各クラブの意見発表を行い、主に（会員増強についての話し合い）を行い、休憩を挟んでNHKアナウンサー松本慶子様による「コミュニケーションを取り伝える」講話を聴き、約1時間ゼスチャーを交えて楽しい時間を過ごしました。

その後、バンドを交えての会員相互の親睦会が行われ、IMの目的でもあるお互いの情報交換が出来た事と思っております。



## 地区チーム研修セミナー報告

2011年2月26日(土)に宇都宮グランドホテルにて、2011-12年度の地区チーム研修セミナーが行われました。

比企ガバナーエレクトからRI会長指針・地区目標・次年度方針について、そして各部門別年間行事並びに活動計画についての協議をしました。





## 世界から激励メール続々

第 2550 地区  
ライラセミナー インストラクター 藤田 雅 美

3月11日の地震以後、生活の様々なことが変化し、学生たちの生活にも非常事態は大きく影響しました。それまで、毎日学校や部活や宿題や課外でやることに追われていた学生たちが、突然やることを失いました。学校も無い、部活も無い、宿題もない、電車もない、という状況です。私はこのままではいけない、ライラの精神を生かさなければと思いました。そこで、3月24日に、このような手紙を世界の友人に向けて発信しました。



各国から150通もの激励メールが届き喜ぶ

Dear Friends in the world,  
世界中で心配してくれているお友達みんなに

日本の悲惨な状況を心配し、毎日世界中からメールが届きます。日本のことを思い、祈ってくださる皆さんの優しさに感動しています。

日本では誰もこれほど壊滅的な天災が襲うなんて夢にも思っていませんでした。今でも信じられない思いです。佐野市は原子力発電所に近いので、野菜、水、ミルクなどが放射能に汚染されました。スーパーでも水やミルクの棚は空っぽになっています。こんな状況で、「でも私たちは人間として恥ずかしくない生き方をしたい」と私は考えました。

私は佐野という小さな町で英語と数学を教えています。災害の被害は少ないのですが、毎日停電があり、電車は運休。灯油やガソリンも供給がストップし、誰もが不安な毎日です。

このため、学校はお休みになっています。授業がない、部活もない、生徒たちは一日中何もすることがなくなりました。学生にとって最も良くない状況だ、と思いました。大人は仕事があるので何とかあります。学生はただ暇で、ただダラダラ家で過ごすだけの毎日です。「テレビを見て、ゲームやって、寝て、飯食って、テレビ見て・・・」それでよいのでしょうか？大人として、そして教育者として私は自分の生徒たちに立ち上がり、戦ってほしいと思いました。

「放射能に汚染されようと、ガソリンがなかろうと、学校が休みであろうと、学生は、若者は生きる力に満ちているはず。ダラダラしている時ではありません。命を、家族を、家を、故郷そのものを失った方たちがたくさんいるのです。恥を知りなさい。車がなければ自転車に乗りなさい。自分の足で歩きなさい。勉強しましょう、いつもどおりに。電気がつかなければお日様があるではありませんか。ろうそくをつければ本も読めるでしょう。私は教室でいつものように、あなたたちを待ちます。」

私は生徒たちにこのように呼びかけました。生徒たちはこれに見事にこたえてくれました。一番遠い子は、20kmもの道を自転車で勉強しに来てくれたのです。教室はいつものように、でも、いつもよりもっと真剣な生徒の顔が並びました。状況に負けない自分を発見した誇りで、どの顔も輝いています。生徒たちは 困難に自分の力でチャレンジすることを学んだのです。

世界各地の私のお友達をお願いします。この学生たちに励ましのメールを送っていただけますか。この子たちにとって海外からの初めてのメールになります。どんなにわくわくすることでしょう。

英語の勉強と同時に、世界の人々の心に触れることも学ぶでしょう。  
どうぞ、協力をお願いします！

Your friend in Japan,  
Masami

これに応じて、毎日のように10通、20通とメールは増えてゆきました。今でも続いています。(イスラエルやスウェーデンやクロアチア等、世界中から150通届いています。) 想像もできなかった反響に、私も生徒たちも呆然としています。

中でも、第二次世界大戦中、収容所で過ごした女の方から困難と戦うのは強い心であること、困難と正面から向き合い、耐え抜くことを説いてくださった長いメール。そしてアメリカの経済学者から頂いたresilienceという言葉は生徒たちの一生の宝だと私は思います。Resilienceとは、「打ちのめされ、心が砕けるような過酷な状況におかれながら、常に平常心を保ち、揺らぐことのない心の力」「重い病気になろうとも、全ての望みが消えようとも、運命に押しつぶされようとも、必ず立ち上がるしなやかな強い心」という意味の言葉です。

ルーマニアのロータリークラブから頂いたメールも驚きで、口がぽかんと開いてしまいました。放射能汚染をさけられるよう、学校と宿舎を用意したので、子供たちを学校ごとしばらくルーマニアに移住させなさい、という内容です。また、スウェーデンの中学校のクラス全員からメールが届き、生徒約30人が一人ひとり英語で礼状を書いて送りました。世界からメールを受け取って、子どもたちは世界の人たちと心が結ばれていることを学んでいます。

先日新潟に呼ばれ、ライラについて講演をしてきました。そのときに、栃木のライラについて話し、皆さん感動してくださいました。また、佐々木君のライラの感想「自分の中で芽を出した種に、これから土をやり、水をやり、日の光を当ててゆきたい」という内容を紹介したところ、涙するロータリアンの方もいらっしゃいました。

### 『ハイライトよねやま』 ニュース

2011年4月12日発行

#### 震災から1カ月……東日本大震災関連の続報

##### ●奨学生の安否

第2520地区(岩手・宮城)、第2530地区(福島)、第2820地区(茨城)について、現役奨学生(3月終了者含む)および合格者、計116名の安否確認をすすめておりましたが、全員の無事が確認されました。

##### ●国内外から支援の輪

4月11日現在までに、台湾学友会から2,576,000円、韓国学友会から1,630,000円、中国学友会から1,358,500円、第2670地区学友会から37万円を受領しました。また、匿名奨学生から「日本で生活するわれわれ外国人も今回の震災に日本人と同じく心を痛め、同じく力を出したい」と、アルバイトで貯めたお金を含め10万円を寄付してくれたほか、台湾学友会理事長の許國文さん(1975-77/徳島RC)が、自身の所属するロータリークラブを通じてマスクを6,000枚送ってくれました。これらの義援金と物資は、近日中に被災地区へ送ります。



## RID2550 2010-11インターアクト海外研修報告



インターアクト委員会委員長  
二十二 修 (宇都宮北RC)

2011年3月26日～29日に今年度のインターアクト海外研修を台湾にて実施いたしました。震災による国内混乱の中の研修ではありましたが、その目的を達成し意義ある研修とすることが出来ました事、また、けが人等も出さず無事帰国できました事、地区内ロータリアン皆様のお陰と感謝申し上げます。

3月11日の東北関東大地震の後、海外研修実施の可否をめくり、各学校と提唱ロータリークラブとの十分な意見交換を行いました。結果、5校中2校のみの参加、インターアクター17名中7名の参加と規模を縮小しての実施となりました。参加した2校につきましては、学校の責任の上保護者にも十分な理解をいただいた上での参加でありました。



26日早朝宇都宮を出発し、午後にはもう台北到着です。入国にあたり日本人のみ別ルートに誘導され、その先に放射能測定器を見た時はさすがに緊張しました。26日午後と27日午前台北101展望台や中正記念堂そして故宮博物館などを見学しました。台湾の伝統的な史跡、それと対照的な近代的な町並みを見学し身をもって台湾の文化を体験することが出来ました。



27日午後、いよいよ今回の交流先である台南市六信高級中学へと向かいました。台南駅では台南3470地区の皆さんと六信高級中学の皆さんの暖かい、そして熱烈な歓迎が待っていました。皆、驚きと感激の瞬間でした。台南駅のホールに響く大きな歓声、涙目になりながら大きく手を振るインターアクター。今回の訪台実施が間違っていなかったと確信した瞬間でした。

28日は、いよいよ交流会の日です。あいにくの雨模様でしたが、早朝より六信高級中学の生徒および先生がホテルまで迎えに来てくださり、手配いただいたバスで交流会場の六信高級中学へ向かいました。

学校へ到着するなりまたまた熱烈歓迎です。電光掲示板には我々を歓迎する言葉が流れ、一人ひとりに傘を差し出し会場まで案内してくれました。歓迎式典は、150名ほどの地区役員、学校関係者の参加で行われました。皆様より歓迎の言葉を頂いた後、羽石PDGよりお礼の言葉が述べられました。粛々と式典は進みいよいよインターアクターたちの自己紹介のパートとなりました。インターアクターたちの中国語の挨拶は、六信高中の生徒たちから大喝采を頂き、一気に場は盛り上がりました。そして、日本で一枚の中国語の楽譜を頼りに練習してきた六信高中の校歌を合唱すると、全員が立ち上がりアンコールの嵐。校長先生も感激で目を潤ませ指揮を執り全員での大合唱となりました。「こんな素晴らしい訪問団を私は知らない。皆さんの友情と熱意が心の中まで伝わってきます。」という校長先生の言葉を聞き、私も目頭が熱くなりました。



途中地元新聞社の取材を受けました。やはり話題は震災と原発。六信高中も、過去交流のある福島東稜高校への募金をしたので羽石PDGに是非届けてほしいと依頼がありました。羽石PDGはこの依頼を快諾され、我々は台南と福島を結ぶ絆を託されました。

昼食は、六信高中の皆さんの手作りによる台南郷土料理を振舞って頂きました。おいしい食事と数々のアトラクション。ここで

も我々は熱い心のこもった歓迎を受けました。

この後、六信高中の先生・生徒の皆さんと古都台南市の歴史的史跡名跡を巡るツアーへ招待いただきました。台南市は日本の京都に喩えられるほど美しく歴史ある街です。その一つ一つを生徒たちに案内して頂き、交流会ならではの体験をさせていただきました。この日の交流会は、別れを惜しむかのように夜遅くまで続きました。



2日間の交流も終わり、いよいよ帰国の朝を迎えました。心残りの気持ちを抑えつつホテルロビーに降りてみると、またまた地区役員と先生・生徒の皆さん大勢でのお見送り。この日も、台南駅までバスでお送り頂き、最後まで熱烈で友情の深い皆さんでした。台南の駅では、別れを惜しむ両校インターアクターと両地区ロータリアン。再会を約束して惜別の時でした。

この後、無事皆元気で日本へ向かいました。今回、初めての台南訪問、そしてまた何よりも震災直後の海外研修でありました。地区役員を初め多くのロータリアンにご心配をおかけしましたことをまずもお詫び申し上げます。しかし、皆様の深いご理解とご協力のおかげで意義ある海外研修であったと思っております。また、ロータリーの素晴らしさを再認識することが出来た



研修でもありました。参加インターアクター達もこの時期ならではの研修が出来たと思います。

最後になりますが、今回ご理解ご協力いただきました地区役員と地区内すべてのロータリアン、そしてRI3470地区および六信高中の皆様にご心より感謝申し上げます。2010-11年度RID2550インターアクト海外研修報告とさせていただきます。

※後日参加インターアクター達の報告書を作成・配布します。こちらも是非ご覧になっていただければ幸いです。

### 報告後記

六信高中からお預かりしました福島市と東稜高校への親書ならびに義援金は、羽石PDGの命を受け、4月4日にインターアクト委員会でお届けして参りました。こちらも理事長を初め学校関係者の歓迎を頂き、恙無く行えましたことをご報告申し上げます。





## ローターアクトクラブの現状を訴える



ローターアクト委員長  
岡川 光 佑 (宇都宮西 RC)

少し旧聞に属しますが3月13日を含む1週間(今年は3月7日~13日)は「世界ローターアクト週間」と定められています。

ローターアクト週間にちなんで、陽南ロータークラブより卓話の依頼があり、当日卓話の冒頭「現在当地区にはローターアクトクラブは2クラブとなり、消滅の危機にあります。当地区では48クラブがローターアクトクラブを提唱していない中で、卓話にお呼び頂いたのはこの陽南ロータークラブだけであり、その熱意に深く敬意を表するものであります。」との挨拶をさせて頂きました。

ところが陽北ロータークラブと陽東ロータークラブからは実際にローターアクトクラブを提唱している宇都宮東ローターアクトクラブに卓話の依頼があったと聞き及んでおります。小職の認識不足でした。

小職よりもローターアクトクラブを提唱している方の卓話の方がよりベターであると思う次第です。クラブ運営上の問題、財政問題、悩み等より具体的に感じており、会員増強には大いにプラスになることです。

3月号の月信にガバナーより「既存のローターアクトクラブでこれに参加するようなところは第2550地区には見あたりません。」とのご指摘を受けました。小職も些細なことまで報告致しておりませんので小職の手落ちです。

ローターアクト地区代表の館野さんよ!! あなたはまだ若い。だから結果よりプロセスの方が大切なのです。自己啓発の場なのでから。

提唱クラブの奉仕活動に参加していることは勿論のことですが、ご多忙の中、あちこちのロータークラブに出掛けて卓話を行い、3年目にしてローターアクトの年次大会を開催するまでになったのではないかと。全国ローターアクト研修会における地区の資料も整備して掲載され、今年は多くの会員も参加し、会員増強のためのパンフレットも作成、他のクラブで行っている「足尾の植樹」にも参加しているのではないかと。その結果として宇都宮大学内にローターアクトクラブが立ち上がるようとしているのです。代表の活躍は小職が認めています。いや、認められなくても自分自身が納得できることをしたならば、それでいいのです。だがローターアクト委員長ともなると結果を出さないと、全く何もしていないことと同じなのです。小職は残念ながら役目を果たせず引退しなければなりません。

地区内のロータリアンにお願い致します。若き青年男女の奉仕活動に目を向けて下さい。あなたの職場から一人でも結構ですから、ローターアクトを送り込んで下さい。これからの社会を担ってくれる人材なのでから。



## ロータリー友情交換



友情交換委員会委員長  
金子 剛 士 (真岡RC)

### ■ 友情交換とは

友情交換は、他国のロータリアン宅にホームステイしながら異文化を体験する機会をロータリアンとその家族に提供する国際交換プログラムです。



### ■ 友情交換の目標

- ・ 国境を越えた個人間の交流を通じて、国際理解と平和を推進する。
- ・ 他国のロータリアンと知り合いになり、相手の文化を直接学ぶ。
- ・ 他国のロータリアンと直接協力して、国際奉仕プロジェクトを計画する。
- ・ クラブ間で長年にわたる関係を構築する。

### ■ 友情交換の実施

- ・ 友情交換に関心を持つロータリアンは、クラブ会長を通じて申請します。地区が友情プログラムに参加しているかどうかは、クラブ会長に問い合わせてください。
- ・ 地区委員長は、世界各地の相手地区の委員長と協力し、交換の詳細な計画をたてます。
- ・ コミュニケーションに役立てていただくために、RIは四半期ごとに友情交換地区委員長名簿を発行しています。

### ■ 交換の種類

- 個人訪問プログラム ・ ロータリアン個人(家族の同伴も可)が、他国のロータリアン宅に数日間滞在
- チーム交換プログラム ・ 通常、4~6組のロータリアン夫婦が、最長1カ月間、受入地区の地域社会を数力所訪問
- 単一職業交換プログラム ・ 同じ職業に就くホストとゲストのロータリアンが、他国での職業実践を観察

### ■ 友情交換の指針

- ・ すべての交換は、相互に交換し合うものとされています。
- ・ 友情交換は、参加するクラブと地区の合意した日程であれば、いつ実施してもかまいません。
- ・ 互いの訪問は、同じ年に実施するか、あるいは一方が翌年に実施することもできます。
- ・ 個人訪問プログラムでの参加者の滞在期間は、数日間(3~4日)ですが、チーム交換プログラムの場合は、最長4週間、受入地区の地域社会を数力所訪問します。
- ・ どの交換においても、ゲストが旅費と個人的な経費を負担するものとされています。ホストは、部屋と食事を提供するほか、観光案内も行います。受入側の基本的な条件は、ホストファミリーの意向により異なり、ゲストは条件を申し出たり、特別な待遇を期待したりするべきではありません。

### ■ 活動予定

交換中には、親睦行事、地元での活動への参加、娯楽といった幅広い活動が行われます。旅程はそれぞれ異なりますが、通常、クラブ例会や地区の集まりへの参加が含まれています。



# 故 吉澤兵左パストガバナーを偲んで



よしざわ ひょうぞ  
吉澤兵左様  
平成23年1月17日逝去  
享年84歳

- 所属 葛生RC
- ロータリー歴 昭和35年11月15日入会
  - 1960～1962年 会長
  - 1997～1998年 地区ガバナー
  - 1999～2011年 諮問委員
  - 2003～2004年 クラブ奉仕カウンセラー
  - 2004～2005年 米山記念奨学会カウンセラー
- 財団・米山記念奨学金などの寄付歴  
ベネファクター  
マルチプル・ポールハリス・フェロー  
米山功労者（メジャードナー）

## 葛生ロータリークラブ パスト会長 永井成雄

葛生ロータリークラブ在籍の現役チャーター・メンバーが相次いで亡くなられました。今年5月の創立50周年記念式典を前にして、さぞ心残りであったろうと思います。1月17日に吉澤兵左氏が2月2日に吉澤俊夫氏が寂滅しました。

吉澤兵左氏の葛生ロータリークラブへの貢献は抜群で財団へはベネファクターとして、マルチプルポールハリスフェロー6度、また米山奨学会ではメジャードナーとして16回の功労者になっています。ニコニコボックスには事ある度に多額の投入をしていました。ご高齢でしたが、ロータリー活動には積極的で、私は勤労奉仕は出来ないけれど金銭的な社会奉仕は出来る限り続けていきたいと仰っていて現役ロータリアンを続けていました。

ガバナーに就任されたのが1997年から1998年でしたが、お辞めになって暫く元気があり

ませんでした。ご本人は、集めた美術品や美術館や土地までも町に寄贈した喪失感と言っていました。また健康に対する不安もあつたと言っていました。不安や恐怖心と闘いながら、ある時聖路加病院の高齢の医者、日野原先生に相談したところ「若いくせに何を躊躇って…」と言われて逡巡していた手術をし、それから元気を取り戻したようです。此の頃から目立って考え方が仏教的宗教的になったようです。六波羅蜜の実践こそ悟りを開く道であり、大きく深い幸せに向かうと信じていたようです。布施・持戒・忍辱・精進・禪定・智慧はまさにロータリー精神そのもので、相手の身分の上下、金持ちであろうが無かろうが、一切差別も区別もしなかった人でした。84歳の他界は葛生ロータリアンのみならず、吉澤兵左さんを知る全ての人に大きなショックを与えたと思います。 合掌

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます。 2010年11月～2011年2月

敬称略・順不同

### マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

小野田 裕 大田原中央 2回	仲野 光男 益 子 1回	高田 順夫 宇都宮南 2回
渡辺 公平 大田原中央 2回	塚本 央 益 子 2回	増山瑞比古 宇都宮西 4回
岡本 明 矢 板 3回	熊倉 勝 佐 野 2回	高野 藤房 宇都宮東 2回
坪山 幸正 矢 板 2回	福田 紳一 佐 野 1回	保坂 正雄 宇都宮西 5回
和気 康之 矢 板 1回	藤沼 邦夫 佐 野 2回	山本 勝 小山北 1回
宮下 浩 宇都宮東 7回	内田 幹也 田 沼 2回	石川 昭男 鹿 沼 東 2回
鈴木 郁男 今市きぬ 2回	長谷川 潤 田 沼 4回	長坂 道夫 鹿 沼 東 2回
横松 宏明 宇都宮西 1回	松本 欣也 栃 木 2回	狐塚 育男 栃 木 西 1回
岡川 光佑 宇都宮西 5回	染谷 芳宏 栃 木 2回	福田 治雄 宇都宮東 2回
恩田 光憲 宇都宮西 3回	箱島 隆司 栗野西方 1回	入江 武 宇都宮東 2回
木内 裕佑 宇都宮西 1回	鈴木 章央 益 子 1回	皆藤 美實 宇都宮東 6回
中野 秀子 しもつけ 1回	野口浩一郎 小山中央 1回	小林 敬治 宇都宮東 2回
阿部 彰 鹿 沼 4回	関口 忠司 鳥 山 1回	小篠 一暉 宇都宮東 2回
小林 一彦 鹿 沼 4回	山田 功 日 光 1回	野口 忠男 宇都宮東 3回
細川 彰 鹿 沼 7回	吉澤慎太郎 葛 生 4回	小尾 英二 宇都宮東 2回
森 一雄 鹿 沼 3回	伊藤 巳芳 小山北 4回	五月女大介 宇都宮東 2回
半田 久一 黒 磯 6回	安齊 誠一 宇都宮南 1回	鈴木 郁夫 宇都宮東 2回
齋藤 武久 黒 磯 1回	小塚 照夫 宇都宮南 1回	鳥居利一郎 宇都宮東 2回
小林 芳久 足利わたらせ 1回	村田 宏明 宇都宮南 2回	豊田 悦孝 宇都宮東 2回
真尾 伸一 足利わたらせ 1回	柴田 幸重 宇都宮南 3回	辻 裕司 宇都宮東 2回

### ポール・ハリス・フェロー

大上 仁志 宇都宮西	石田 幹男 小山北
南 俊郎 しもつけ	手束 公一 小山北
橋本 為二 岩 舟	塩野 文男 鹿 沼 東
早乙女和弘 鹿 沼	鷹見 直人 鹿 沼 東
和気 勝利 黒 磯	中澤 健治 栃 木 西
後藤 俊一 佐 野	飯鉢 治雄 宇都宮東
須藤 隆志 栃 木	尾野崎孝夫 宇都宮東
鳥居 清一 宇都宮90	吉川 卓志 宇都宮東
岩瀬 剛之 小山中央	

### ベネファクター

川永 作衛 大田原中央
中井 本秀 大 田 原
太城 敏之 宇都宮東
大井田宗継 鹿 沼
田中 徹 黒 磯
田村 徹 田 沼
高井 祥之 日 光
伊藤 巳芳 小山北
須田 安衿 栃 木 南

### 米山功労者

石津 泰造 足 利 東 4回	木村 透 馬頭小川 5回	長坂 道夫 鹿 沼 東 3回
五十嵐 章 足 利 東 5回	膝附 武男 栃 木 西 1回	柳田 解生 真 岡 4回
小林 康伸 足 利 東 1回	太田 照男 宇都宮東 21回	速水 巖 日 光 1回
松葉 悠子 足 利 東 4回	岡川 光佑 宇都宮西 12回	福田 久男 日 光 1回
中島 恭三 足 利 東 1回	中島 健一 足利わたらせ 1回	橋本 洋 大 田 原 12回
大竹 義夫 足 利 東 5回	中島 公明 足利わたらせ 1回	橋本 憲一 大 田 原 6回
堤箸 克之 足 利 東 3回	栃木 秀磨 足利わたらせ 5回	井上 成紀 大 田 原 12回
地斎 和雄 足 利 東 2回	長谷川 隆 今 市 3回	吉成 仁見 大 田 原 4回
椎名 則之 足 利 東 1回	天下井正弘 岩 舟 1回	唐橋 一男 大田原中央 3回
鈴木 賢 足 利 東 4回	片柳 伸一 鹿沼中央 1回	千 昌永 大田原中央 1回
塚越 啓司 足 利 東 8回	関口 久雄 鹿沼中央 4回	前田 芳夫 小山東 3回
鰐原 一男 栗野西方 1回	植野 雅之 鹿沼中央 1回	神山 宜久 小山南 6回
金子 和夫 栗野西方 7回	阿見 英博 鹿 沼 東 3回	小島 欣明 小山南 2回
牛久 忠 栗野西方 4回	石川 仁 鹿 沼 東 3回	山本 郁夫 小山南 2回
岩河 良彦 馬頭小川 4回	増田 潔 鹿 沼 東 1回	大関 輝雄 田 沼 2回

国際ロータリー第2550地区 3月会員増強・出席報告

区分	クラブ名	例会数	出席率		会員数							
			今月	平均	7月1日	今月	入会	退会	通算増	通算減	増減	内女性員
第1グループ	大田原	3	75.22	81.99	39	37	0	2	1	3	-2	2
	黒磯	3	91.10	94.03	44	41	0	1	0	3	-3	2
	西那須野	4	87.49	93.69	42	44	0	1	4	2	2	0
	黒羽	3	92.16	95.68	19	17	0	0	0	2	-2	1
	那須	4	67.86	75.90	14	14	1	0	1	1	0	1
	塩原	2	68.18	71.22	10	11	0	0	1	0	1	0
第2グループ	大田原中央	4	71.20	75.82	23	27	1	0	6	2	4	2
	鳥山	4	92.85	92.85	14	14	0	0	0	0	0	1
	氏家	5	77.14	88.33	24	23	0	0	0	1	-1	0
	矢板	4	60.60	62.81	31	31	0	0	0	0	0	5
	馬頭小川	3	84.90	89.18	21	22	0	0	1	0	1	0
第3グループA	高根沢	3	68.00	75.77	18	18	0	0	1	1	0	0
	宇都宮	4	65.50	72.87	92	95	0	0	8	5	3	0
	宇都宮西	3	82.47	86.57	66	69	2	1	6	3	3	0
	宇都宮北	3	80.34	80.72	49	48	0	0	0	1	-1	0
	宇都宮90	2	81.50	87.18	39	40	0	0	1	0	1	5
第3グループB	宇都宮陽北	2	77.98	78.44	35	34	0	0	0	1	-1	4
	宇都宮東	3	90.07	93.69	95	95	0	0	3	3	0	0
	宇都宮南	4	78.06	84.37	51	49	0	0	1	3	-2	0
	宇都宮陽東	4	75.00	69.70	44	44	0	0	2	2	0	0
第4グループ	宇都宮陽南	3	88.72	87.49	20	18	0	0	0	2	-2	2
	真岡	3	86.40	90.48	50	51	0	0	3	2	1	0
	益子	4	88.00	92.16	29	31	0	0	2	0	2	0
	真岡西	2	85.00	93.82	40	41	0	0	1	0	1	6
第5グループ	しもつけ	1	90.62	92.14	33	32	0	0	0	1	-1	8
	小山	4	98.70	97.51	39	39	1	0	2	2	0	0
	小山南	3	95.00	94.17	18	20	0	0	2	0	2	2
	小山東	4	92.14	93.82	33	35	1	0	2	0	2	0
	小山北	4	78.40	82.55	20	22	0	0	2	0	2	0
第6グループ	小山中央	3	81.90	83.54	24	24	0	0	0	0	0	1
	栃木	5	82.00	80.75	41	39	0	0	0	2	-2	0
	栃木西	2	85.71	84.67	35	35	0	0	1	1	0	0
	壬生	4	69.00	88.72	21	21	0	0	1	1	0	3
	栃木南	4	93.00	90.97	31	31	0	0	0	0	0	5
第7グループ	日光	3	71.93	72.46	24	24	0	0	0	0	0	5
	鹿沼	4	71.15	77.82	66	65	0	0	0	1	-1	1
	今市	2	90.24	91.00	41	41	0	0	1	1	0	0
	鹿沼東	4	91.57	94.39	43	44	0	0	2	1	1	3
	栗野西方	3	69.00	80.94	14	14	0	0	0	0	0	1
第8グループ	鹿沼中央	3	79.49	84.83	27	27	0	0	0	0	0	2
	今市きぬ	3	88.87	91.93	28	27	0	0	0	1	-1	0
	足利	3	72.73	72.26	40	37	0	0	2	5	-3	0
	足利東	4	77.45	77.97	55	60	0	0	5	0	5	8
第9グループ	足利西	3	82.03	76.91	13	13	0	0	0	0	0	0
	足利わたらせ	3	90.48	94.25	28	28	0	0	0	0	0	0
	佐野	2	85.05	92.18	58	60	1	0	2	0	2	0
	葛生	5	89.70	91.37	38	36	0	0	0	2	-2	0
	田沼	4	88.51	90.96	35	36	0	0	1	0	1	0
50RC	佐野東	4	89.77	88.57	21	22	0	0	3	2	1	0
	岩舟	4	80.00	88.11	22	23	0	0	1	0	1	1
			82.00	85.39	1757	1769	7	5	69	57	12	71

米山功労者

茂呂 章 栃 木 2回	公文 初江 しもつけ 5回	辻 達男 真 岡 4回
木村 透 栗野西方 5回	西村 松男 鹿沼東 3回	大澤 光司 栃 木 1回
阿部 彰 鹿 沼 8回	塩野 文男 鹿沼東 1回	藤沼 康雄 栃 木 西 4回
大塚 政人 鹿 沼 1回	高橋 宏 鹿沼東 3回	宝住 与一 宇都宮 3回
柴田 芳雄 鹿 沼 3回	鷹見 直人 鹿沼東 1回	木村 正樹 宇都宮 1回
若林 繁造 鹿 沼 2回	出口 敏 鹿沼東 3回	荻山 猛彦 宇都宮 1回
渡辺 章悟 鹿 沼 2回	湯沢 義典 鹿沼東 3回	荻山 猛彦 宇都宮 2回
石崎 忠夫 小 山 3回	江田 惣平 葛 生 3回	羽石 光臣 宇都宮東 3回
加藤 隆夫 小 山 7回	長島 徹 葛 生 3回	岩原 臣男 宇都宮北 6回
小池 保 小 山 4回	新田 実 葛 生 3回	五味湖昭夫 宇都宮北 4回
中尾 聡 小 山 1回	奥山 國之 葛 生 8回	佐伯 秀利 宇都宮北 7回
田村 一夫 小 山 4回	田澤 秀文 葛 生 4回	山口慶之助 宇都宮北 5回
宇井 邦和 小 山 5回	吉澤 兵左 葛 生 17回	西山 穰 宇都宮陽北 2回
八木澤孝仁 小 山 3回	吉澤 俊夫 葛 生 8回	西田 靖 宇都宮陽北 1回
荒川 直男 しもつけ 1回	吉澤慎太郎 葛 生 9回	保坂 正雄 宇都宮西 15回
伊沢 勝彦 しもつけ 2回	杉村 久夫 真 岡 5回	

米山功労クラブ

足利東 35回	鹿沼東 21回	小山南 13回
鹿沼 33回	葛生 22回	宇都宮 35回
小山 26回	真岡 35回	宇都宮陽北 10回
宇都宮東 20回	日光 7回	
足利わたらせ 11回	大田原中央 6回	

文庫通信

最近の資料より

- ◎「ロータリーへの道〔三訂版〕」 ポール・ハリス著；柴田實訳 成田RC 2011 372p  
[申込先：成田RC FAX(0476)33-8786]
- ◎「ロータリーの日常の知識」 三木 明訳 2010 83p  
(A Talking Knowledge of Rotary) [申込先：三木 明 FAX(079)223-2477]
- ◎「決議23-34について」 山口 勝 2010 32p  
(D.2720ガバナー月信総集編) [申込先：ロータリー文庫(コピー/ PDF)]
- ◎「職業奉仕の目ざす所」 勝野露観 2010 12p  
(職業奉仕その心と今日的役割/D.2640) [申込先：ロータリー文庫(コピー/ PDF)]
- ◎「ロータリアンの職業宣言について考えること『職業奉仕の現代的意義』」 北岡 満 2010 4p  
(職業奉仕その心と今日的役割/D.2640) [申込先：ロータリー文庫(コピー/ PDF)]
- ◎「『四つのテスト』の解釈について」 辻林俊彦 2010 2p  
(職業奉仕その心と今日的役割/D.2640) [申込先：ロータリー文庫(コピー/ PDF)]
- ◎「ロータリー入門書2010~2011年度版」 前原勝樹・重田政信 2010 197p  
[申込先：北斗事業出版 TEL(03)5207-6681]
- ◎「ロータリークラブ 簡単図解」 鈴木章夫 D.2520 2011 12p  
[申込先：ロータリー文庫]
- ◎「カンボジア・ベトナム海外研修」 柏木希予 2010 1p  
(D.2650インターアクト海外研修報告) [申込先：ロータリー文庫(コピー/ PDF)]

ロータリー文庫 〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階 開館 午前10時~午後5時 休館 土・日・祝祭日  
TEL (03)3433-6456・FAX(03)3459-7506 http://www.rotary-bunko.gr.jp